

DIGITAL PIANO P-105

準備編

本

編

付

録

取扱説明書について

本書取扱説明書に合わせて、以下のマニュアルをご覧いただき、この楽器の機能を十分に生かしてお使いください。

■電子マニュアル

インターネット上のヤマハマニュアルライブラリーからご覧いただけます。

インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「P-105」など)を入力して「検索」ボタンをクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/manual/>



コンピューターとつなぐ

コンピューターと楽器を接続しての使い方を説明しています。



MIDIリファレンス

「MIDIデータフォーマット」や「MIDIインプリメンテーションチャート」など、この楽器のMIDIに関する資料や、MIDI設定に関する詳細な説明が掲載されています。



MIDI入門

MIDIについての基本的な知識が掲載されています。

このたびは、ヤマハ電子ピアノをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
この楽器の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただきため、本書をお読みください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

もくじ

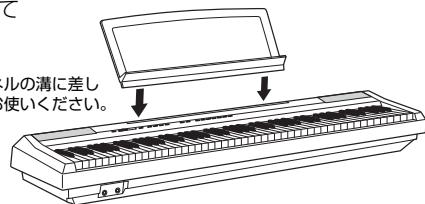
付属品(お確かめください)	2	メトロノーム/リズムを鳴らす	15	
安全上のご注意	3		メトロノームの拍子の設定	15
準備編		リズムの選択	15	
各部の名前と機能	6	メトロノーム/リズムのテンポ設定	15	
ご使用前の準備		メトロノーム/リズムの音量の設定	15	
電源を入れる	7	演奏を録音する	16	
音量を調節する	7		かんたん録音	16
ヘッドフォンを使う	7		パートごとに録音する	16
外部スピーカーを使う	7		ユーザー・ソングの設定を書き換える	17
フットスイッチを使う	8		スタンダードMIDIファイル(SMF)を転送する	17
別売のペダルユニットを使う	8	ユーザー・ソングを削除する	18	
本編		曲に合わせて演奏する	18	
音色を選んで弾く	9		バックアップと初期化	19
音色を選ぶ	9		オートパワーオフ機能	19
2つの音色を重ねる(デュアル)	9			
右手と左手で違う音色を弾く(スプリット)	10		付録	20
ピアニストスタイルを使う	10	困ったときは		20
二人で一緒に弾く(デュオ)	11	仕様		20
音に残響を付ける(リバーブ)	12	クイックオペレーションガイド		22
タッチ感度を変える	12			
キー(調)を変える(トランスポーズ)	13			
音の高さを微調整する(チューニング)	13			
内蔵曲を聞く				
音色デモ曲を聞く	14			
ピアノ50曲を聞く	14			

付属品(お確かめください)

- 保証書
- 取扱説明書(本書)
- ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)
- 電源アダプター
- フットスイッチ
- ユーザー登録のご案内

譜面立て

本体パネルの溝に差し
込んでお使いください。



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
   	～しないでくださいという「禁止」を示します。
  	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



警告

電源 / 電源アダプター



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。
また、電源コードに重いものをのせない。

禁止

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行



電源アダプターは、必ず指定のもの(20ページ)を使用する。
異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。

必ず実行



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

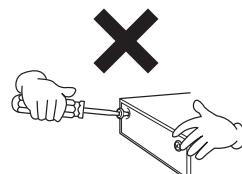
必ず実行

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。

禁止



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なにおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



禁止

たこ足配線をしない。

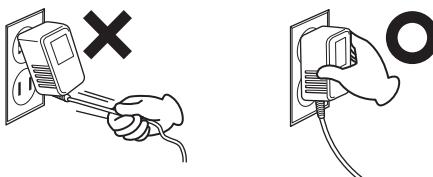
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。

本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



●データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

●不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

[**h**] (スタンバイ / オン) スイッチを切った状態 (電源ランプが消えている) でも微電流が流れています。[**h**] (スタンバイ / オン) スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のある場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ データの保存に関する注意

- 一部のデータ(19ページ)は本体内部のメモリーに保存されます。電源を切ってもデータは保持されますが、故障や誤操作などのため失われることがあります。大切なデータは、コンピューターに保存してください(詳しくは電子ファイル『コンピューターとつなぐ』をご覧ください)。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどご配慮をお願いします。
- この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

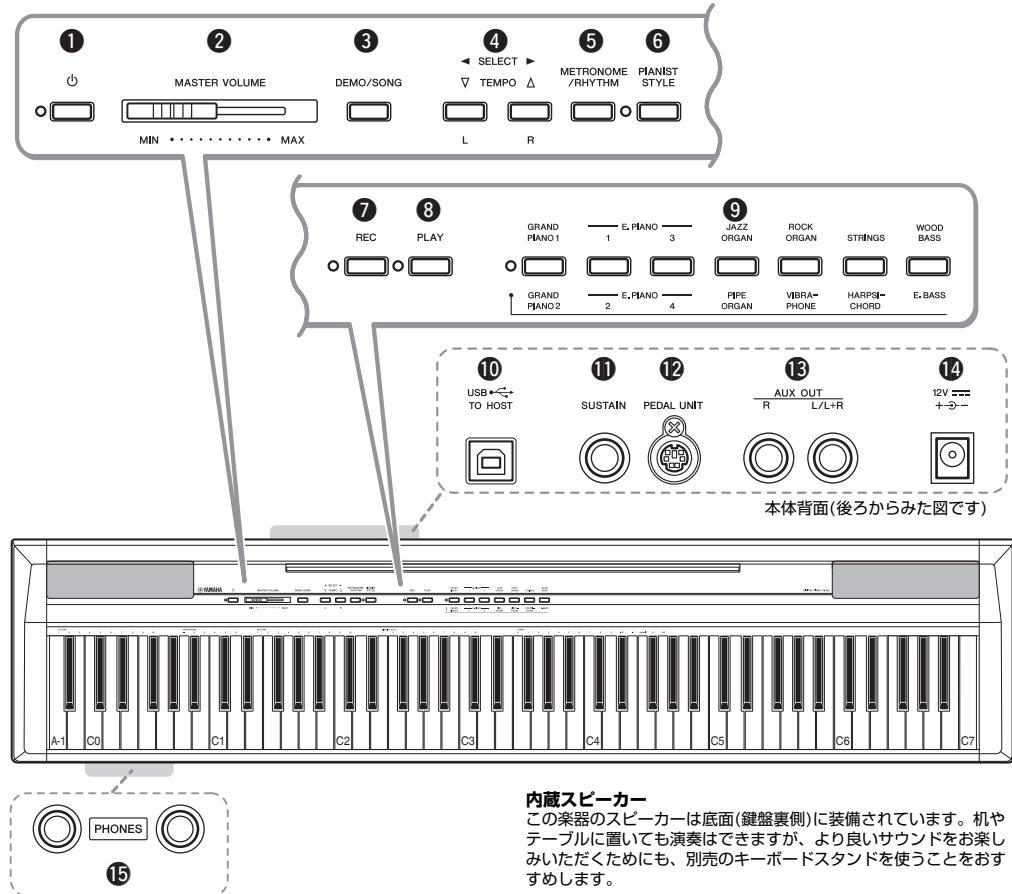
■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

各部の名前と機能



- ① [電源] (スタンバイ/オン)スイッチ 7ページ
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- ② [MASTER VOLUME]スライダー 7ページ
音量を調節します。
- ③ [DEMO/SONG]ボタン 14ページ
デモ曲やピアノ曲を聞くことができます。
- ④ TEMPO [△][▽]、SELECT [◀][▶]ボタン 14ページ
再生中のデモ曲/内蔵曲を切り替えたり、テンポを設定したり、録音/再生のパートを選択したりします。
- ⑤ [METRONOME/RHYTHM]ボタン 15ページ
練習用のメトロノームやリズムを鳴らします。
- ⑥ [PIANIST STYLE]ボタン 10ページ
ピアニストスタイルを使って演奏します。
- ⑦ [REC]ボタン 16ページ
演奏を録音します。
- ⑧ [PLAY]ボタン 16ページ
録音した演奏(ユーザーソング)を再生します。
- ⑨ 音色ボタン 9ページ
ボタンの上側/下側のパネルに印刷されている、各音色を切り替えます。

内蔵スピーカー

この楽器のスピーカーは底面(鍵盤裏側)に装備されています。机やテーブルに置いても演奏はできますが、より良いサウンドをお楽しみいただくためにも、別売のキーボードスタンドを使うことをおすすめします。

⑩ [USB TO HOST]端子

コンピューターと接続するための端子です。ユーザー ソングをコンピューターに保存したり、MIDI情報をコンピューターとの間でやりとりします。詳しくは電子ファイル『コンピューターとつなぐ』と『MIDIリ ファレンス』をご覧ください。

注記

- USBケーブルは、ABタイプのものをご使用ください。
- また、3メートル以下のケーブルをご使用ください。
- USB3.0ケーブルは、ご使用できません。

⑪ [SUSTAIN]端子 8ページ

付属のフットスイッチや、別売のフットスイッチ/ペダルを接続します。

⑫ [PEDAL UNIT]端子 8ページ

別売のペダルユニットを接続します。

⑬ [AUX OUT] [L] / [L+R] / [R]端子 7ページ

オーディオ機器へのステレオ出力用端子です。

⑭ [DC IN]端子 (12V)

付属の電源アダプターを接続します。

⑮ [PHONES]端子 7ページ

ヘッドフォンを接続します。

ご使用前の準備

電源を入れる

1 付属の電源アダプターのDCプラグをリアパネルのDC IN端子に接続します。

△ 警告

- 電源アダプターは必ず指定のもの(20ページ)をご使用ください。他の電源アダプターの使用は故障、発熱、発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証致しかねる場合がございますので、充分にご注意ください。

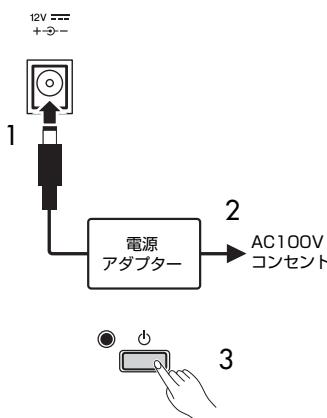
2 電源アダプターのACプラグを家庭用(AC100V)コンセントに接続します。

3 [↓](スタンバイ/オン)スイッチを押します。

電源が入り、[↓]スイッチ左の電源ランプが点灯します。電源を切るとさはもう一度このスイッチを押します(1秒)。

△ 注意

- [↓]スイッチが切れている状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。感電や火災、故障の原因になることがあります。

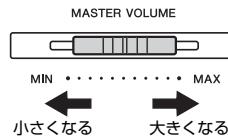


重要

- この楽器の電源は、30分以上パネル操作や鍵盤演奏をしていないと、自動的に切れます。詳細は、19ページをご参照ください。

音量を調節する

鍵盤を弾いて音を出しながら、本体パネル左の[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節します。



インテリジェント・アコースティック・コントロール(I.A.C.)

楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。

I.A.C.機能のオン/オフ

[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を同時に押したままC#5を押すとオン、D5を押すとオフになります。

初期設定は、オンに設定されています。

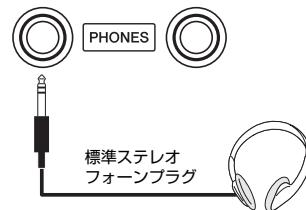
補正のかかり具合の調節

[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を同時に押したままA#4～C5のどれかを押します。A#4で1ずつ減り、C5で1ずつ増え、B4で初期値(0)に戻ります。設定範囲は、-3～+3です。

鍵盤の位置は、『クイックオペレーションガイド』(22ページ)をご覧ください。

ヘッドフォンを使う

この楽器には[PHONES]端子が2つあるので、ヘッドフォンを2台同時に使えます。1台だけ使う場合は、どちらの端子に接続してもかまいません。いずれかの端子に接続するとスピーカーからは音が出なくなります。



△ 注意

- 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

外部スピーカーを使う

アンプ内蔵スピーカーなどをAUX OUT端子に接続して、より大きな音を出します。AUX OUT端子から出力される音量は、楽器本体の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。

注記

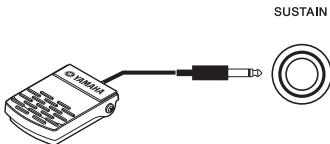
- この楽器のAUX OUT端子を使う場合、電源を入れるときは楽器→外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器→楽器の順に行なってください。

NOTE

- 接続ケーブルおよび接続プラグは抵抗のないものをお使いください。
- 本体音をモノラル信号で取り出すときは、AUX OUT[L/L+R]端子を使ってください。

フットスイッチを使う

付属のフットスイッチを接続することで、ピアノのダンパー・ペダルと同様、ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。また、別売のフットペダルFC3、フットスイッチFC4、FC5も接続できます。FC3ではハーフペダル機能が使えます。



ハーフペダル機能(FC3接続時/ペダルユニット装着時)

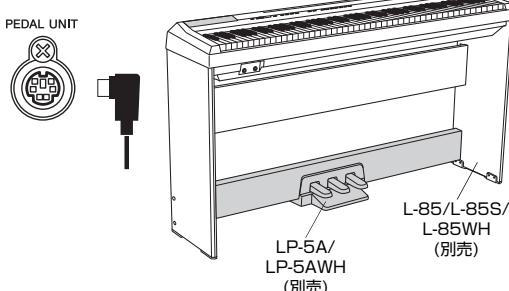
ペダルを踏んだ際、音が響きすぎる場合にペダルを踏み込んだ状態から少し戻すことで響きを抑える機能です。

NOTE

- フットスイッチ/フットペダルを踏んだまま楽器の電源を入れないでください。フットスイッチ/フットペダルのオン/オフが逆転します。
- フットスイッチ/フットペダルのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。

別売のペダルユニットを使う

別売のペダルユニットLP-5A/LP-5AWHを接続すると、3本ペダルを使って演奏できます。ペダルユニットは、必ず別売の専用スタンドL-85/L-85S/L-85WHに取り付けてお使いください。

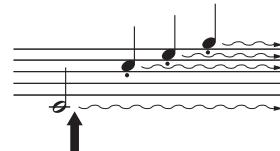


NOTE

- フットペダルユニットのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。

ダンパー・ペダル(右のペダル)

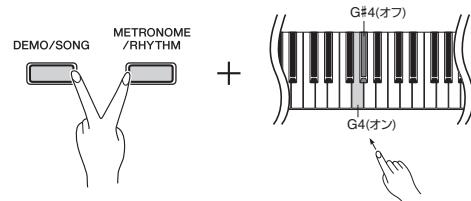
ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。ペダルを踏み込むほど音が長く伸びます(ハーフペダル対応)。



ここでダンパー・ペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

ダンパー・レゾナンス

グランドピアノでダンパー・ペダルを踏んだ際の、弦どうしの共振状態を再現する機能です。[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を同時に押したままG4を押すとオン(初期設定)、G#4を押すとオフになります。

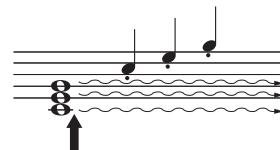


NOTE

- デュオ中(11ページ)は、ダンパー・レゾナンスは使えません。

ソステヌートペダル(まん中のペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離してもペダルを踏んでいる間鳴り続けさせます。ペダルを踏んだ状態で弾いた音に対しては機能しないので、「和音を長く鳴らしながらメロディーをスタッカートで弾く」といったことができます。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが、ペダルを踏んでいる間響く

ソフトペダル(左のペダル)

このペダルを踏んだあとに弾いた鍵盤の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏んでいる間は効果が持続します。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前にペダルを踏みます。

NOTE

- ジャズオルガン、ロックオルガンの音色を選ぶと、左ペダルは、ロータリースピーカーの回転の速い/遅いを切り替える機能に変わります。

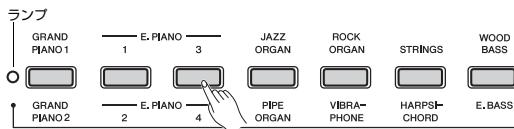
音色を選んで弾く

音色を選ぶ

鍵盤を弾いたときに鳴る楽器音(ピアノやオルガンなど)を選びます。

1 音色ボタンを押して、音色を選びます。

同じボタンをくり返し押すごとに、ボタン上側に印刷された音色(ランプ消灯時)と下側に印刷された音色(ランプ点灯時)が切り替わります。



音色名	音色紹介
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	コンサートグランドピアノをサンプリングした音です。弱いタッチでのなめらかな音色変化が表現できます。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)	明るい響きを持った広がりあるクリアな音です。ポピュラー音楽に最適です。
E. PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E. PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。E. Piano 1よりクリアなサウンドで同じくポピュラー音楽に使われます。
E. PIANO 3 (エレクトリックピアノ3)	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾くと柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
E. PIANO 4 (エレクトリックピアノ4)	E. Piano 3とは異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。別売のペダルユニット(LP-5A/LP-5AWH)を接続すると、左ペダルの操作で「ROTARY SP」(回転スピーカー)エフェクトの回転の速い/遅いを切り替えられます。
PIPE ORGAN (パイオルガン)	パイオルガンのプリンシバル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
ROCK ORGAN (ロックオルガン)	明るくエッジのきいた電気オルガンの音です。ロックに最適です。別売のペダルユニット(LP-5A/LP-5AWH)を接続すると、左ペダルの操作で「ROTARY SP」(回転スピーカー)エフェクトの回転の速い/遅いを切り替えられます。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	比較的柔らかなマレットでたたいた音です。強く弾くほど金属的な音になります。
STRINGS (ストリングス)	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
HARPSICHORD (ハープシコード)	バロック音楽でよく使われる楽器です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離したときに独特の音が鳴ります。
WOOD BASS (ウッドベース)	アップライトベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
E. BASS (エレクトリックベース)	ジャズ、ロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。

2 鍵盤を弾いてみましょう。

NOTE

- 各音色の特徴がよくわかる、音色ごとのデモソングが用意されています。(14ページ)
- オクターブを上げたり下げたりすることができます(下記の「第1音色」を参照)。

2つの音色を重ねる(デュアル)

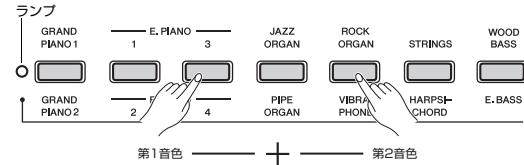
鍵盤を弾いたときに同時に2つの音色を重ねて鳴らします(デュアル)。重ねる2つの音色のうち、左側の音色ボタンで設定する音色を第1音色、右側のボタンで設定する音色を第2音色といいます。

NOTE

- 1つの音色ボタンの2音色(STRINGSとHARPSICHORDなど)を重ねて鳴らすことはできません。

1 デュアルに入ります。

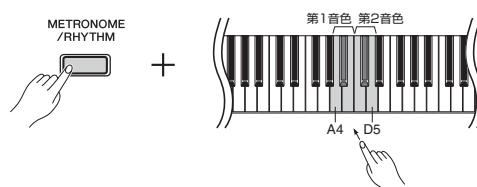
音色ボタンを1回か2回押して、そのまま押さえておきます。そのまま、別の音色ボタンを1回か2回押します。ランプ消灯時はボタン上側に印刷された音色が、点灯時は下側に印刷された音色が選択されています。ボタンから指を離すことで、操作は終了です。このとき、左側のランプは第1音色の状態を表わします。



2 2つの音色が重なったサウンドで、鍵盤を弾いてみましょう。

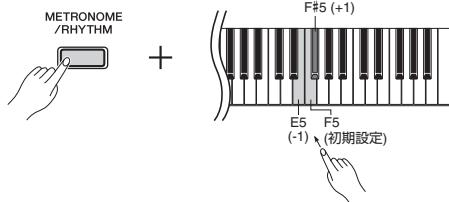
各音色のオクターブを上げる/下げる

第1音色のオクターブは[METRONOME/RHYTHM]を押したまま、A4を押すたびに1ずつ下がり、B4を押すたびに1ずつ上がり、A#4を押すと初期設定に戻ります。第2音色のオクターブは[METRONOME/RHYTHM]を押したまま、C5を押すたびに1ずつ下がり、D5を押すたびに1ずつ上がり、C#5を押すと初期設定に戻ります。設定範囲は、第1音色、第2音色とも-3~0~3です。



2 音色の音量バランスをとる

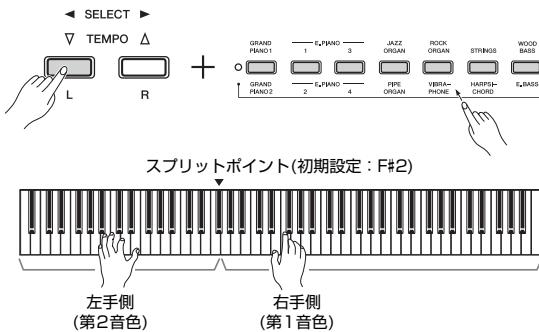
[METRONOME/RHYTHM]を押したままE5～F#5のどれかを押します。E5で1ずつ減り、F#5で1ずつ増え、F5で初期設定に戻ります。設定範囲は-6～+6で、値が大きいほど第1音色の音量が大きくなります。

**3 デュアルを解除するには、いずれかの音色ボタンを押します。****右手と左手で違う音色を弾く(スプリット)**

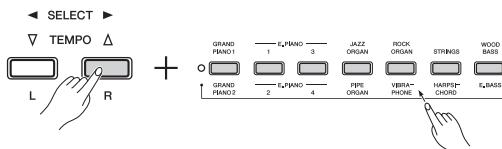
鍵盤を左右に分けて、左手と右手で別の音色で演奏できます。左手の演奏をウッドベースで鳴らし、右手のメロディーをグランドピアノで鳴らすなど、幅広い演奏表現ができます。

1 [L]を押したまま、左手側の鍵盤で鳴らしたい音色のボタンを押します。

鍵盤の分かれ目(スプリットポイント)から左側の音色(第2音色)が選ばれます。



NOTE
・デュアルとスプリットは同時に使えません。

2 右手側の音色(第1音色)を変更する場合は、[R]を押したまま、鳴らしたい音色のボタンを押します。**各音色のオクターブを上げる/下げる**

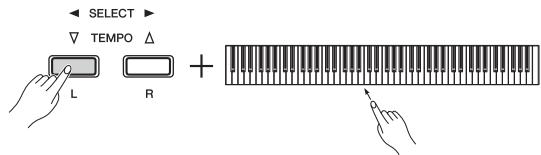
デュアルと同じです。(→9ページ)

2 音色の音量バランスをとる

デュアルと同じです。(左記参照)

スプリットポイントの変更

[L]を押したまま、スプリットポイントを設定したい鍵盤を押します。最低音から押した鍵盤までが左手側となります。

**3 スプリットを解除するには、いずれかの音色ボタンを押します。****ピアニストスタイルを使う**

左手でコードを押さえるだけで、そのコードに合ったアルペジオが自動で演奏される機能です。

1 [PIANIST STYLE]を押します(ランプ点滅)。

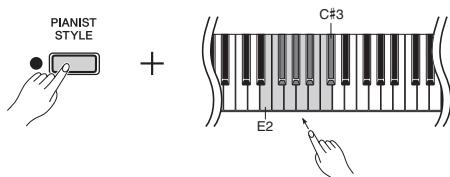
スプリットポイントから左側がコード鍵域に、右側がメロディー鍵域になります。



スプリットポイント(初期設定: F#2)

**2 [PIANIST STYLE]を押したままE2～C#3のどれかを押して、ピアニストスタイルを選びます。**

ピアニストスタイルの鍵盤への割当は、『クイックオペレーションガイド』(22ページ)をご覧ください。



3 コード鍵域でコードを押さえます。

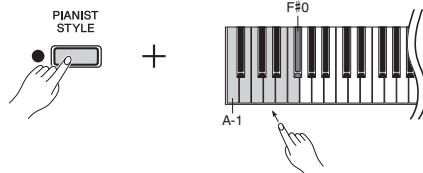
ピアニストスタイルの自動演奏がスタートします。
右手でメロディーを弾きましょう。

NOTE

- コードの押さえ方は、市販のコード表などをご参考ください。

ピアニストスタイルの音量の設定

[PIANIST STYLE]を押したままA-1～F#0のどれかを押すことで、ピアニストスタイルの音量(1～10、初期設定は7)を設定できます。



NOTE

- 鍵盤上部の印刷(VOLUME 1～10)を参考してください。

ピアニストスタイルのテンポの変更

メトロノーム/リズムのテンポ設定と同じです。(→15ページ)

[PIANIST STYLE]と鍵盤操作でもテンポの設定ができます。鍵盤への割当は、『クイックオペレーションガイド』(22ページ)をご覧ください。

4 [PIANIST STYLE]を押すと、ピアニストスタイルの自動演奏が停止し、通常状態に戻ります。

スプリットポイントの変更

スプリットと同じです。(→10ページ)

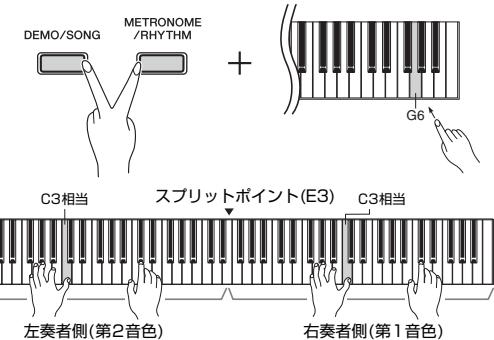
最低音から押した鍵盤までがコード鍵域となります。

二人で一緒に弾く(デュオ)

鍵盤を左右に分けて、同時に二人が同じ音域で演奏できます。1台の楽器で二人同時に演奏したり、二人並んで座り、一人がお手本を弾き、もう一人がそれを見ながら練習する、といった使い方ができます。

1 [DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままG6を押します。

E3がスプリットポイントとなり、鍵盤が左奏者側と右奏者側に分かれます。



NOTE

- デュオのスプリットポイントはE3から変更できません。
- デュアルがオンの状態で、デュオに入るとデュアルは解除されます。音色は第1音色になります。

2 左側鍵域と右側鍵域に分かれて、2人で演奏しましょう。

左側音色を選ぶ

[L]を押したまま、音色ボタンのいずれかを1回か2回押します。

右側音色を選ぶ

[R]を押したまま、音色ボタンのいずれかを1回か2回押します。

左側と右側を同じ音色にする

音色ボタンのいずれかを1回か2回押します。

各音色のオクターブを上げる/下げる

デュアルと同じです。(→9ページ)

2音色の音量バランスをとる

デュアルと同じです。(→10ページ)

デュオ機能でのペダル効果

SUSTAIN端子に接続したフットスイッチの効果は、左右両方にかかります。また、別売のペダルユニット(8ページ)を接続した場合の効果は以下のとおりです。

- ダンパーペダル：右側鍵域のダンパー効果
- ソステナートペダル：左右両方のダンパー効果
- ソフトペダル：左側鍵域のダンパー効果

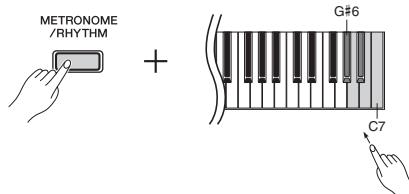
3 デュオを解除するには、[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままG6を押します。

音に残響を付ける(リバーブ)

演奏音に、コンサートホールで弾いたような残響音(リバーブ)を加えます。音色を選ぶと、その音色に最適なりバーブが自動的に設定されますが、自分でリバーブの種類(リバーブタイプ)や深さを設定できます。

リバーブタイプの設定

[METRONOME/RHYTHM]を押したままG#6～C7のどれかを押して、リバーブのタイプを選びます。

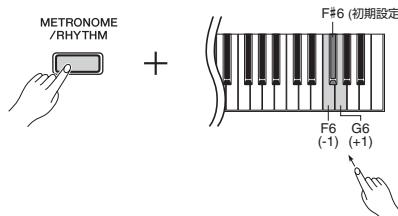


リバーブタイプリスト

鍵盤	リバーブ タイプ	説明
G#6	ルーム	狭い部屋の中にいるような響き。
A6	ホール1	小さいコンサートホールにいるような響き。
A#6	ホール2	大きいコンサートホールにいるような響き。
B6	ステージ	ステージにいるような響き。
C7	オフ	リバーブはかかりません。

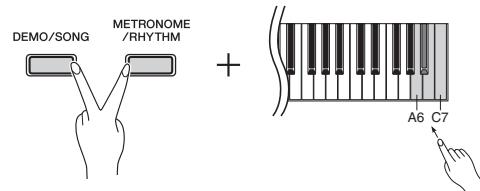
リバーブの深さの設定

[METRONOME/RHYTHM]を押したままF6～G6のどれかを押します。F6で1ずつ減り、G6で1ずつ増え、F#6で初期設定(現在の音色に最適な深さ)に戻ります。設定範囲は0(効果なし)～20で、値が大きいほど効果は深くなります。



タッチ感度を変える

鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方(タッチ感度)を設定します。(鍵盤の重さ自体は変わりません。)[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままA6～C7のどれかを押して、タッチ感度を選びます。



鍵盤	タッチ感度	説明
A6	フィックスト	タッチの違いによる音の強弱は付かず、一定の音量で鳴ります。
A#6	ソフト	軽いタッチで大きい音を出すことができます。
B6	ミディアム	標準的なタッチ感度です。(初期設定)
C7	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。

NOTE

- ジャズオルガン、パイプオルガン、ロックオルガン、ハープシコードの音色ではタッチ感度による音の強弱は付きません。

キー(調)を変える(トランスポーズ)

鍵盤を弾いたときの発音を、半音単位で上げたり下げたりする(移調)機能です。弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人のキー(調)に合わせることができます。たとえばトランスポーズを「+5」に設定した場合は、「ド(C)」の鍵盤を弾いたときに「ファ(F)」の音が出ます。つまり「ハ長調」の弾き方で「ヘ長調」の演奏になります。

キーを下げる(実際の鍵盤よりも低い音を出す)

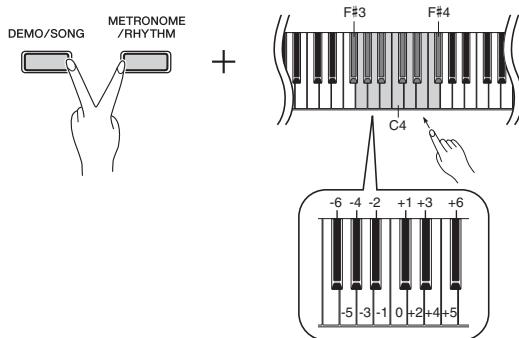
[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままF#3～B3のどれかを押します。

キーを上げる(実際の鍵盤よりも高い音を出す)

[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままC#4～F#4のどれかを押します。

元のキーに戻す

[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままC4を押します。



音の高さを微調整する(チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。他の楽器と演奏する際やCDなどに合わせて演奏する際に、音の高さを正確に合わせることができます。

音の高さを下げる

[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままC#0を押すごとに、約0.2Hz刻みで下がります。

音の高さを上げる

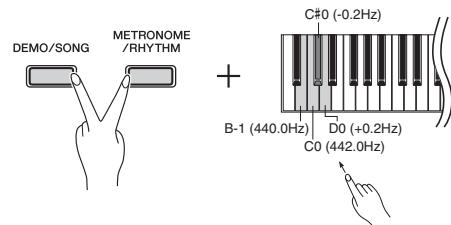
[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままD0を押すごとに、約0.2Hz刻みで上がります。

440.0Hzに設定する

[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままB-1を押します。

442.0Hzに設定する

[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を押したままC0を押します。



NOTE

• 設定範囲は427.0Hz～453.0Hz、初期設定は440.0Hzです。

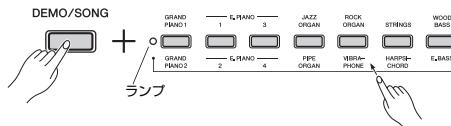
内蔵曲を聞く

音色デモ曲を聞く

この楽器には、ピアノやオルガンといった音色ごとにその音色の特徴がよくわかるデモ曲が用意されています。

1 [DEMO/SONG]を押したまま、聞きたい音色のボタンを1回または2回押します。

同じ音色ボタンを押すことでランプの点灯/消灯が切り替わります。点灯/消灯では、ボタン下側/上側に印刷された音色が、それぞれ選択されています。音色選択が終わったら、ボタンから指を離し再生をスタートさせます。選択した音色のデモ曲から順に(ボタンの左から右へ)再生されます。

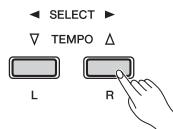


NOTE

- [DEMO/SONG]だけを押した場合は、グランドピアノ1のデモ曲から順に再生されます。

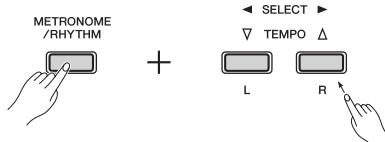
再生中のデモ曲切替

- 音色を選ぶ操作(9ページ)により、デモ曲を切り替えられます。
- SELECT [◀]/[▶]をそれぞれ押すと前後のデモ曲に切り替わります。



再生中のテンポ変更

[METRONOME/RHYTHM]を押したままTEMPO [▽]/[△]を押すごとに、テンポが1ずつ遅く/速くなります。



デモ曲リスト

音色名	曲名	作曲者
パイオルガン	オルガン小曲集「神のひとり子なる主キリスト」BWV.601	J.S.バッハ
ハープシコード	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV.1058	J.S.バッハ

上記デモ曲は、原曲を編集/抜粋したものです。他のデモ曲は、ヤマハのオリジナルです。(©2012 Yamaha Corporation)

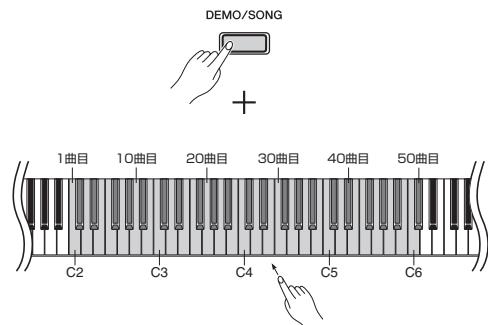
2 再生を止めるには[DEMO/SONG]を押します。

ピアノ50曲を聞く

この楽器には、デモ曲のほかにピアノ50曲の演奏データが入っています。付属の『ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)』から好きな曲を選んで聞いてみましょう。

1 [DEMO/SONG]を押したまま、C2~C#6のどれかを押します。

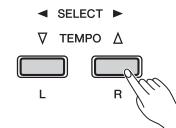
ピアノ曲番号の鍵盤への割当は、『クイックオペレーションガイド』(22ページ)をご覧ください。



選んだ番号から順に、ピアノ曲が連続して再生されます。

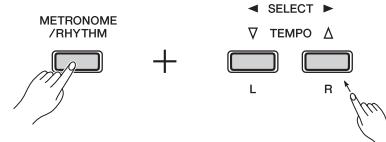
再生中のピアノ曲切り替え

- [DEMO/SONG]を押したままC2~C#6を押します。
- SELECT [◀]/[▶]を押すと、前後の曲に切り替わります。



再生中のテンポ変更

[METRONOME/RHYTHM]を押したままTEMPO [▽]/[△]を押すごとに、テンポが1ずつ遅く/速くなります。



2 再生を止めるには[DEMO/SONG]を押します。



メトロノーム/リズムを鳴らす

メトロノームは、正確なテンポで練習するときに便利な機能です。

この楽器には、メトロノーム音(クリック音)だけでなく10種類のリズムも内蔵しており、楽しく練習ができます。

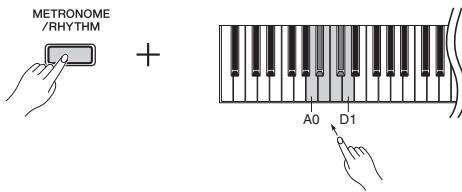
- [METRONOME/RHYTHM]を押すと、メトロノームまたはリズムがスタートします。



- もう一度[METRONOME/RHYTHM]を押すと、停止します。

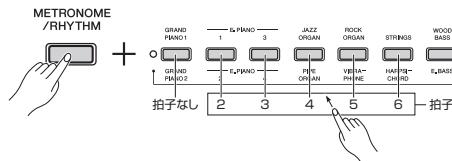
メトロノームの拍子の設定

[METRONOME/RHYTHM]を押したままA0～D1のどれかを押して、メトロノームの拍子を設定します。



※鍵盤上部の印刷を参照してください。

[METRONOME/RHYTHM]を押したまま音色ボタンのどれかを押すことでも、メトロノームの拍子を設定できます。



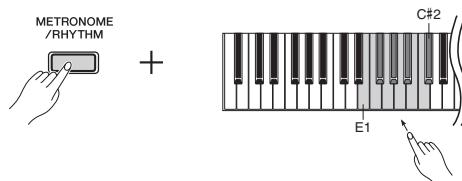
NOTE

・リズムの拍子は変更できません。

リズムの選択

[METRONOME/RHYTHM]を押したままE1～C#2のどれかを押して、リズムを選びます。

リズムの鍵盤への割当は、『クイックオペレーションガイド』(22ページ)をご覧ください。



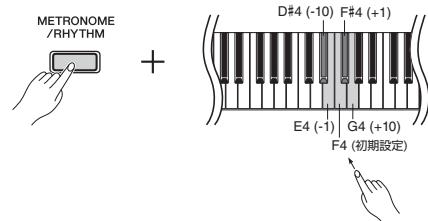
メトロノーム/リズムのテンポ設定

テンポを1ずつ増減する

メトロノーム/リズム再生中は、TEMPO [▽]/[△]を押します。停止中は、[METRONOME/RHYTHM]を押したままTEMPO [▽]/[△]を押します。

テンポを1ずつまたは10ずつ増減する

[METRONOME/RHYTHM]を押したままD#4～G4のどれかを押します。



※鍵盤上部の印刷を参照してください。

テンポを初期設定(120)に戻す

メトロノーム/リズム再生中は、TEMPO [▽]と[△]を同時に押します。停止中は、[METRONOME/RHYTHM]を押したままTEMPO [▽]と[△]を同時に押します。

テンポを数値で設定する

[METRONOME/RHYTHM]を押したまま、F3～D4のいずれかの鍵盤を押します。たとえば、95に設定する場合は、[METRONOME/RHYTHM]を押したままF3(0)→D4(9)→A#3(5)と押します。

NOTE

・鍵盤上部の印刷(TEMPO 0～9)を参照してください。

メトロノーム/リズムの音量の設定

[METRONOME/RHYTHM]を押したままA-1～F#0のどれかを押すことで、メトロノーム/リズムの音量(1～10、初期設定は7)を設定します。

NOTE

・鍵盤上部の印刷(VOLUME 1～10)を参照してください。

演奏を録音する

自分の演奏を録音し、ユーザーソング(SMFフォーマット)としてこの楽器に保存できます。L/Rの2パートがあるので、パートごとの録音もできます。

注記

- ・録音できるユーザーソングは1曲だけなので、録音により既存のデータは消えます。録音データがある場合は[PLAY]ランプが点灯しているので、十分ご注意ください。なお、録音データを保存しておきたい場合は、コンピューターにSMFファイルとして転送/保存しておきましょう。詳細は、電子ファイル「コンピューターとつなぐ」をご参照ください。

NOTE

- ・この楽器に演奏できる容量は、100KB(およそ11,000音符)です。

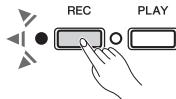
かんたん録音

1 録音の前に、音色や拍子などを設定しておきます。

ピアニストスタイルによる演奏を録音したい場合は[PIANIST STYLE]をオンにしておくなど、演奏方法に合わせた設定をしましょう。録音モードに入ってからでは設定できない項目もあるので、あらかじめ設定しておきます。

2 [REC]を押して録音待機状態にします。

[REC]ランプがテンポに合わせて点滅します。必要に応じてテンポを設定します(15ページ)。

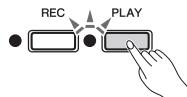


NOTE

- ・ソング再生中は、[REC]を押しても録音待機状態にはなりません。
- ・メトロノーム/リズムを鳴らしながら録音できます。ただし、メトロノーム/リズム音は録音されません。また、ピアニストスタイルによる演奏を録音する場合は、メトロノーム/リズムを鳴らせません。

3 鍵盤を弾くか[PLAY]を押すと、録音が開始されます。

[REC]ランプが点灯に変わり、[PLAY]ランプがテンポに合わせて点滅します。



鍵盤を弾いて、演奏しましょう。



4 録音を停止するには、[REC]または[PLAY]を押します。

録音されたデータは内部メモリーに書き込まれます。内部メモリーへの書き込み中は[REC]と[PLAY]のランプが点滅します。

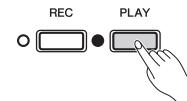
書き込みが終了すると[REC]のランプは消灯します。

注記

- ・内部メモリーへの書き込み中([REC]と[PLAY]のランプが点滅中)は電源を切らないでください。データが失われます。

5 録音した曲(ユーザーソング)を聞くには、[PLAY]を押します。

もう一度[PLAY]を押すと再生が停止します。



かんたん録音した曲のパート内容

ピアニストスタイル、スプリット、デュオを設定している場合は、かんたん録音を行なうと、下表のようにLパート、Rパートに演奏が録音されます。

	Lパート	Rパート
ピアニストスタイル	左手鍵域でのコード変更	右手の演奏
スプリット、デュオ	左手側/左奏者側の演奏	右手側/右奏者側の演奏

パートごとに録音する

LパートまたはRパートのどちらかを選んで録音できます。

注記

- すでに録音したデータがあるパートを選んで録音した場合、その前に録音されていたデータは上書きされ、消えてしまいます。

NOTE

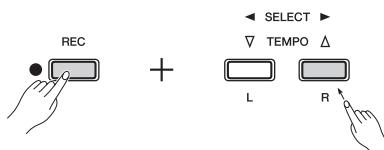
- ピアニストスタイル、スプリット、デュオを設定している場合は、パートを選んで録音することはできませんので、かんたん録音を行なってください。

1 録音の前に、音色や拍子などを設定しておきます。

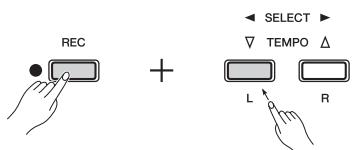
2 [REC]を押したまま、録音するパートのボタン([R]または[L])を押します。

パート別録音の待機状態になります。

Rパートに録音する場合



Lパートに録音する場合



録音待機状態になり、[REC]ランプがテンポに合わせて点滅します。必要に応じてテンポを設定します（15ページ）。

もう一方のパートに、すでに録音したデータがある場合

録音を開始すると、録音済みデータのあるパートは再生されるので、それに合わせて演奏し録音できます。また、[PLAY]を押しながらこのパートのボタン([R]または[L])を押すことで、再生音のオン/オフを切り替えられます。

NOTE

- 録音中にメトロノーム/リズムを鳴らせますが、録音はされません。

3 鍵盤を弾くか[PLAY]を押すと、録音が開始されます。

[REC]ランプが点灯に変わり、[PLAY]ランプがテンポに合わせて点滅します。

4 録音を停止するには、[REC]または[PLAY]を押します。

録音されたデータは内部メモリーに書き込まれます。内部メモリーへの書き込み中は[REC]と[PLAY]のランプが点滅します。書き込みが終了すると[REC]のランプは消灯します。

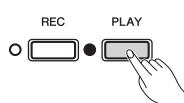
注記

- 内部メモリーへの書き込み中（[REC]と[PLAY]のランプが点滅中）は電源を切らないでください。データが失われます。

5 もう片方のパートに録音する場合は、上記手順1～4を繰り返します。

6 録音した曲（ユーザーソング）を聞くには、[PLAY]を押します。

もう一度[PLAY]を押すと再生が停止します。



ユーザーソングの設定を書き換える

以下の設定情報は、録音を終えた後でも変更できます。

パートごとに設定できる情報

音色、音量バランス、リバーブの深さ、ペダル（ダンパー/ソフト）

ユーザーソング（L、Rパート共通）に設定する情報

テンポ、リバーブタイプ、ピアニストスタイル音量

これらの設定情報は、以下の手順により書き換えられます。

1 パネル操作により、上記項目をそれぞれ書き換える内容に設定します。

2 [REC]を押したまま[R]または[L]を押して、設定を書き換えるパートを選びます。

L、R両パートに共通して録音される情報は、どちらのパートを選んでも書き換えられます。

録音待機状態になり、[REC]ランプがテンポに合わせて点滅します。

注記

- 録音待機状態で、[PLAY]または鍵盤を押さないでください。録音が開始され、すでにあるユーザーソングを消してしまいます。

3 [REC]を押すと設定情報が書き込まれ、録音待機状態が解除されます。

スタンダードMIDIファイル(SMF)を転送する

ミュージックソフトダウンローダー（無償）を使って、コンピューターと楽器本体のユーザーソングのメモリーエリアとの間で、SMFファイルをやりとりできます。詳細は、電子ファイル『コンピューターとつなぐ』をご覧ください。

注記

- コンピューターから楽器本体にSMFファイルを転送すると、ユーザーソングにある既存のデータは消えてしまいます。必ず事前に、本体のユーザーソング（SMFファイル）をコンピューターに転送しておきましょう。

ユーザーソングを削除する

- 1 [REC]を押して録音待機状態にします。
[REC]ランプがテンポに合わせて点滅します。
- 2 [PLAY]を押したまま[REC]を押して削除待機状態にします。
[PLAY]と[REC]両方のランプが点滅します。
- 3 削除を実行するには、[PLAY]、[REC]、[L]、[R]のいずれかを押します。
[PLAY]と[REC]のランプが交互に点灯(削除中)したあと、両方のランプが消灯(削除終了)します。

[NOTE]

- 削除待機前の状態に戻るには、[PLAY]と[REC]以外のボタン([DEMO/SONG]など)を押します。

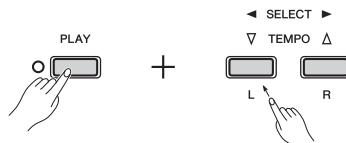
パートを選んで削除する

- 1 [REC]を押したまま、消したいパートのボタン([R]または[L])を押して録音待機状態にします。
[REC]ランプがテンポに合わせて点滅します。
- 2 [PLAY]を押して録音を開始します。鍵盤は弾かないでください。
- 3 削除を実行するには、[REC]または[PLAY]を押します。

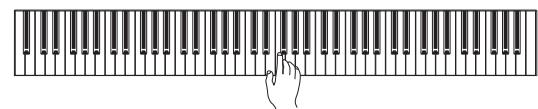
曲に合わせて演奏する

ピアノ曲およびユーザーソングは、LパートまたはRパートのどちらか一方をミュート(鳴らさない)して再生できます(デモ曲ではできません)。たとえば、「ピアノ曲のRパートをミュートしてLパートだけを聞きながら、右手のメロディーを自分で弾く」といったことができます。

- 1 ソング再生をスタートします。
ユーザーソングをスタートする場合は、[PLAY]を押します。
- 2 ソング再生中、[PLAY]を押したまま、ミュートしたいパートのボタン[R]または[L]を押します。
押すごとにミュートする/しないが切り替わります。



- 3 鳴っているパートの再生を聞きながら、鳴っていないパートを弾いて練習しましょう。



- 4 再生を止めるには、[PLAY]を押します。

[NOTE]

- ピアノ曲を切り替えると、ミュートは解除されます。

バックアップと初期化

以下の設定やデータは自動的にバックアップされるので、電源を切っても消えません。

バックアップデータ

メトロノーム/リズム音量、メトロノーム/リズム設定(拍子またはリズム番号)、タッチ感度、チューニング、スプリットポイント、ピアニストスタイル音量、オートパワーオフ、ダンパー・レゾナンスオン/オフ、I.A.C.オン/オフ、I.A.C.補正のかかり具合、ユーザー・ソング

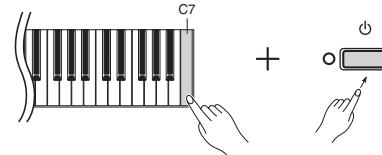
ユーザーソングをコンピューターに保存する

上記バックアップデータのうち、ユーザーソングだけはコンピューターに転送しスタンダードMIDIファイル(SMF)として保存ができます。詳細は、電子ファイル『コンピューターとつなぐ』をご覧ください。

バックアップデータを初期化する

バックアップデータを工場出荷時の状態に戻すことを「初期化」といいます。

C7(右端の鍵盤)を押したまま[](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れると、初期化されます。



初期化実行中は[REC]と[PLAY]のランプが点滅します。初期化が終了すると[REC]と[PLAY]のランプは消灯します。

注記

- 初期化実行中([REC]と[PLAY]のランプが点滅中)は電源を切らないでください。

NOTE

- 本機が正常に動作しない場合、初期化を試してみてください。

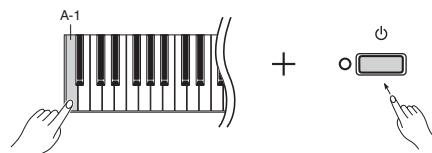
オートパワーオフ機能

無駄な電力消費を防ぐための機能です。この機能により、この楽器の初期設定では、30分何も操作をしないと自動的に電源が切れるようになっています。電源を自動的に切りたくない場合は、以下の手順でオートパワーオフを無効にしてください。

オートパワーオフ機能を無効にする

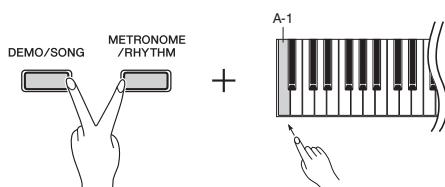
楽器の電源が入っていない場合

A-1(左端の鍵盤)を押したまま[](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。電源ランプが3回点滅し、オートパワーオフ機能が無効になります。



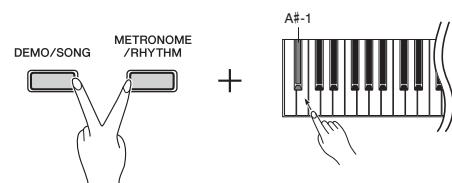
楽器の電源が入っている場合

[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を同時に押したままA-1(左端の鍵盤)を押します。



オートパワーオフ機能を有効にする

電源が入っている状態で、[DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を同時に押したままA-1(左端の鍵盤)を押します。



困ったときは

現象	原因と解決方法
電源が入らない。	電源アダプターは正しく接続されていますか。電源アダプターを本体とコンセントに確実に差し込んでください。(<→7ページ>)
電源が自動的に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。オートパワーオフ機能を使いたくない場合は、機能を無効にしてください。(<→19ページ>)
スピーカー / ヘッドフォンから雑音が出る。	楽器の近くで携帯電話を使用していませんか。携帯電話の電源を切るか楽器から離れて使用してください。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	[MASTER VOLUME]スライダーが下がっていませんか。上げてみてください。(<→7ページ>) [PHONES]端子にヘッドフォンが接続されていませんか。(<→7ページ>) ローカルコントロールの設定がオンになっていますか。(<→電子マニュアル『MIDIリファレンス』参照)
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	異常ではありません。ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[SUSTAIN]端子/[PEDAL UNIT]端子に確実に接続されているか確認してください。(<→8ページ>)
フットスイッチ(サステイン)のオン/オフが逆になった。(フットスイッチを踏むと音がカットされ、離すとサステインが効く)	フットスイッチを踏みながら電源を入れたため、フットスイッチの極性が逆になっています。電源を切り、フットスイッチを踏まずに、もう一度電源を入れ直してください。

付

録

仕様

寸法 [幅×奥行き×高さ]

・ 1326×295×163 (mm)

質量

・ 11.7 kg

鍵盤

・ 88鍵(A-1～C7)
・ グレードハシマースタンダード(GHS)鍵盤
・ タッチ感度：4段階(ハード/ミディアム/ソフト/フィックスト)

音色数

・ プリセット：14
・ 最大同時発音数：128

効果/機能

・ リバーブ：4タイプ
・ ダンパーレゾナンス
・ デュアル
・ スプリット
・ デュオ
・ I.A.C.

ピアニストスタイル

・ 10スタイル

内蔵ソング

・ デモ曲14 + ピアノ曲50

録音

・ 録音曲数：1曲
・ 録音トラック数：2
・ データ容量：1曲100KB(約11,000音符)
・ フォーマット：
　　再生：SMF (フォーマット0、フォーマット1)
　　録音：SMF (フォーマット0)

機能

- ・ トランスポーズ
- ・ チューニング(427.0～453.0Hz)
- ・ メトロノーム/10リズム
- ・ テンポ(5～280)

接続端子

- ・ DC IN (12V)端子、PHONES端子(標準ステレオ)×2、SUSTAIN端子、PEDAL UNIT端子、USB TO HOST端子、AUX OUT端子

メインアンプ

- ・ 7 W + 7 W

スピーカー

- ・ 12 cm × 2 + 5 cm × 2

電源

- ・ 電源アダプター：PA-150Aまたはヤマハ推奨の同等品
- ・ 消費電力：11 W

付属品

- ・ 保証書、取扱説明書(本書)、ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)、電源アダプター(PA-150Aまたはヤマハ推奨の同等品)、フットスイッチ、譜面立て、ユーザー登録のご案内

別売品

- ・ ヘッドフォン(HPE-30/HPE-150)、フットペダル(FC3)、フットスイッチ(FC4/FC5)、キーボードスタンド(L-85/L-85S/L-85WH)、ペダルユニット(LP-5A/LP-5AWH)、電源アダプター(PA-150Aまたはヤマハ推奨の同等品)

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

メモ

付

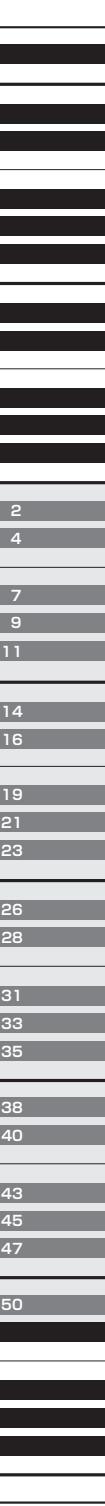
録

クリックオペレーションガイド

①、②では[DEMO/SONG]か[PIANIST STYLE]を押したまま、グレーの鍵盤のどれかを押して、曲やピアニストスタイルを選んだり値を設定したりします。

1

DEMO/SONG



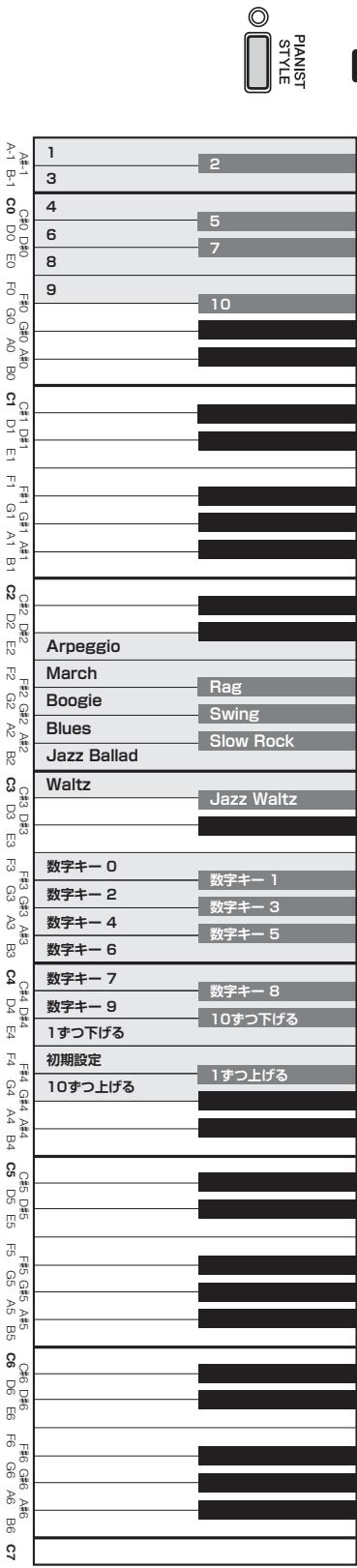
ピアノ50曲

2

ピアニストスタイルの音量

ピアニストスタイル

ピアニストスタイルのテンポ



クリックオペレーションガイド

3 メトロノーム/リズム/RHYTHMを押したまま、グレーの鍵盤のどれかを押して、リズムを選んだり値を設定したりします。

4 [DEMO/SONG]と[METRONOME/RHYTHM]を同時に押したまま、グレーの鍵盤のどれかを押して、値を設定します。

3



METRONOME /RHYTHM

1 3 4 6 8 9 2 5 7 10 3 4 6 5 8 Beat 16 Beat Triplet Beat Swing March 6/8 March Samba Waltz Jazz Waltz

数字キー 0

数字キー 2

数字キー 4

数字キー 5

数字キー 6

数字キー 7

数字キー 8

数字キー 9

10 ずつ下げる

初期設定

1 ずつ上げる

-1 (第1音色)

初期設定 (第1音色)

+1 (第2音色)

初期設定 (第2音色)

-1

初期設定

+1

-1

+1

初期設定

ルーム

ホール 1

ステージ

ホール 2

オフ

リバーブ

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

右記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申しつけください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金をご利用いただけます。
市内通話料でOK
ナビダイヤル 上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830

受付時間
FAX

月曜日～金曜日 9:00～18:00、土曜日 9:00～17:00 (祝日およびセンター指定休日を除く)
東日本(北海道/東北/関東/甲信越) 03-5762-2125
西日本(沖縄/九州/中国/四国/近畿/東海/北陸) 06-6465-0367

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45 (祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX 03-5762-2125
名古屋サービスステーション 〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11 ピアノ運送株式会社 名古屋営業所1F FAX 052-363-5903
西日本サービスセンター 〒554-0024 大阪市此花区島屋6丁目2-82 ユニバーサル・シティ和幸ビル9F FAX 06-6465-0374
九州サービスステーション 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4 ヤマハビル2F FAX 092-472-2137

● 電子ピアノの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビダイヤル



0570-006-808

携帯電話、PHS、IP電話からは 053-460-5272

営業時間
http://jp.yamaha.com/support/

月曜日～金曜日 10:00～18:00、土曜日 10:00～17:00 (祝日およびセンター指定休日を除く)

◆ インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

ヤマハ株式会社ホームページ <http://jp.yamaha.com/>

ヤマハ ピアノ・鍵盤楽器サイト <http://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハ マニュアルライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/manual/>

ヤマハ 音楽データショップ <http://www.music-eclub.com/musicdata/>

ヤマハ株式会社

デジタル楽器事業部 マーケティング部 CL・PKグループ

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

U.R.G., Digital Musical Instruments Division

© 2012 Yamaha Corporation

※ 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、
あらかじめご了承ください。

205POTY11-01A0

Printed in China

ZA70870